

## 第3回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会 会議録

日時：令和3年11月19日（金）14時30分開会

場所：札幌ガーデンパレス（札幌市中央区北1条西6丁目）

出席：浅香委員、大西委員\*、梶井副会長、川島委員、定池委員、佐藤（大）委員、佐藤（理）委員、柴田委員、尚和委員、高橋委員、中田委員、原田委員\*、平本会長、福士委員\*、牧野委員、松田委員、山中委員、山本（一）委員、山本（強）委員、吉岡委員（\*…オンライン出席）

事務局：浅村政策企画部長、本山企画課長、田中企画係長

### 1. 開 会

○事務局（浅村政策企画部長） 開始時間となりましたので、札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会を開会いたします。

私は、札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村でございます。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の会議につきましては、札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会条例第4条第2項によりまして、委員の半数以上の出席が必要となります。本日の出席者は、委員総数25名のところ、オンライン出席も含めて20名の委員にご出席をいただいております。会議の成立要件を満たしておりますことをご報告いたします。

議事進行については、平本会長にお願いしたいと存じます。

よろしくお願ひいたします。

### 2. 議 事

○平本会長 承知いたしました。

本日も天気の悪い中をお集まりくださいます、どうもありがとうございます。

それでは、早速ですが、始めたいと思います。

（1）は、市民アンケート、ワークショップ等の結果についての報告です。

これについて事務局よりご説明をいただきたいと思ひます。

○事務局（田中企画係長） まず、第1回審議会にて調査表をお示ししたアンケートの実施結果です。

机上に配付した次第、委員名簿、座席表の次にある右上に資料1-1と表示のあるものをご覧ください。

左側にアンケートの概要を記載しておりますが、本年8月に市民1万人を対象として実施し、回答率は22.7%、年代、居住区の内訳は、ほぼ均等に取れております。

調査結果の説明に入ります。

資料の右側です。

本アンケートでは、現戦略ビジョンの7分野と基本目標にひもづくまちの姿について、それぞれ現在までの充実度と今後の重要度を尋ねておりますが、そのうち、分野の総合評価を帯グラフで表しております。左側が現在までの充実度、右側が今後の重要度です。

なお、現在ご審議していただいている生活・暮らし分野の内容は安全・安心分野に含まれており、また、スポーツについては文化分野に含まれております。

また、右下の散布図は、「高い」「やや高い」などの評価を点数化し、比較したものです。縦軸は現在までの充実度で、文化分野、都市空間分野が高く、続いて、環境分野、安全・安心分野となっております。横軸は今後の重要度で、子ども・若者分野が高く、続いて、安全・安心分野、環境分野、経済分野となっております。

続いて、裏面の右上に2/3とあるページをご覧ください。

こちらは、基本目標に紐づくまちの姿ごとの充実度の評価を数値化して並べたものです。

上位のものは左側の上に位置し、上位3項目は、北海道の食の魅力を生かした食産業が発展している、雪やウィンタースポーツを楽しむ環境が整っている、地下鉄や路面電車の沿線では、買物、通院などの生活利便性の高い暮らしの場が形成されている、でした。

これに対し、下位の3項目は右側の下に位置し、商店、商店街が活性化し、地域ににぎわいを生み出している、虐待やいじめ、不登校などに適切に対応する体制が整っている、地域において子どもから高齢者までの多世代間の交流が活発である、でした。

続いて、右肩に3/3とあるページをご覧ください。

こちらは同様に今後の重要度の評価を並べたものですが、上位3項目は左側の上にあります。働きながら子育てができる環境が整っている、北海道の食の魅力を生かした食産業が発展している、安心して子どもを生み育てることができる環境が整っている、でした。

続いて、市民ワークショップについてです。

右肩に資料1-2とあるものをご覧ください。

左側ですが、現在ご審議をいただいている8分野それぞれで、10年後、どのように変わっていたらよいかなどについて意見交換を行っていただいたもので、市民アンケートの回答者を中心に、公募も合わせて約50名の参加がございました。

右側には子ども・若者分野の記録を載せておりますが、子育て世代へのサポート、子どもや若者が遊んだり学んだりできる場や機会の充実などについて意見が出ておりました。

次に、裏面の右肩に2/5とあるページでございます。

左側の生活・暮らし分野では、健康づくりや医療提供体制の充実、障がいを持った方や高齢者が暮らしやすいまちづくりの必要性について、右側の地域分野では、若者や学生の町内会への参画などについて意見が出ておりました。

次に、右肩に3/5とあるページでございます。

左側の安全・安心分野では、災害に対する備えや近隣との関係づくり、情報共有の取組の必要性などについて、右側の経済分野では、札幌の強みとなる産業やチャレンジできる

仕組みづくりの必要性などについて意見が出ておりました。

次に、裏面の右肩に4／5とあるページです。

左側のスポーツ・文化分野では、スポーツや文化をより身近に感じるための手法の必要性などについて、右側の環境分野では、エネルギー問題やごみの減量への対応の必要性などについて意見が出ておりました。

次に、右肩に5／5とあるページでございます。

左側の都市空間分野では、回遊性の向上や緑と共存したまちづくりの必要性などについて意見が出ておりました。

右側でございますが、8分野の話合いの総括として、10年後の札幌の都市像について改めて意見交換を行っていただいたところ、人の交流やつながりが生まれるまちにしたい、豊かな自然を大切にしていきたいという意見などが出ておりました。

最後に、右肩に資料1－3とあるものをご覧ください。

本年3月、戦略ビジョンの策定方針の公表に併せて開催し、また、動画配信も行ったシンポジウムに寄せられた意見のほか、直近1年間で実施した戦略ビジョンの出前講座等の内容を掲載しております。

いただいた意見や関心を示されていた内容は、いずれも3に記載しております。全てについての説明はここではいたしません。少子化の進行や人口減少の到来を踏まえ、子育て支援の充実の必要性、公共施設の規模の適正化、また、若い人が働きたいという産業の創出などの意見が出ておりました。

報告は以上でございます。

○平本会長 ただいまご説明をいただきました内容について、ご質問やご意見があれば、ご発言をいただきたいと思っております。どなたでも結構ですので、挙手の上、お願いします。

○山本(一)委員 アンケート調査もそうですし、今までの充実度のちょっと低いところ、それから、期待度の高いものに子育てに関する項目が非常に多かったという印象を持っております。

やはり、私たちはこの会議で未来をつくる子どもたちに対して何ができるのか、どのような未来を提案できるのかに市民の皆様は非常に関心を持たれており、また、私たちも関心を持っているところだと思っておりますので、ぜひ、この会議でもう少し多くの議論をして、いいまちにしていくようなビジョンをつくっていきたいと考えております。

○平本会長 おっしゃるとおりだと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○定池委員 資料1－1についての質問です。

重要度、充実度に関しては、今、山本委員もおっしゃっていた子ども・若者や子育て的なものについて、多分、項目によって年齢による違いがあるのかなと思ったのですが、今お話しいただける範囲でご教示いただければと思います。

○事務局(田中企画係長) お答えをさせていただきます。

まず、現在までの充実度につきましては、環境分野については各年代でほぼ均等に「高い」「やや高い」と答える方がおりました。それ以外のほかの分野については、若年層ほど、「高い」「やや高い」と答えた方が多かったところです。

また、今後の重要度については、同じように、地域分野と文化分野については若年層ほど「高い」と答える割合が高く、その他の分野についてはどの年代でもほぼ均等でした。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○吉岡委員 結果として、子ども・若者、あるいは、子育てに関わる環境整備の重要度が高いということを認識できましたが、例えば、資料1-1の3/3の今後の重要度では、子育てに関わる環境整備や子どもを生き育てることができる環境が整っていること、または、子どもの教育環境の整備について重要度が高いという結果となっております。

その反面、右側の下の重要度が必ずしも高くないものとしては、住民の助け合い、支え合いが活発である、地域の町内会、自治会に参加し、まちづくり活動が活発に行われていることが選択されています。

でも、子育てや地域の支え合い、助け合い、地域活動というのは一つのことで、リンクしていると思うのです。異なる重要度となっているのですけれども、実は共通しているということは押さえておきたいと思っております。

○平本会長 大切なご指摘ですね。市民の方々がこれは特段重要ではないと思っているのは、もう既に充実しているからなのか、諦めているからなのか、はたまた、リンクをあまり意識していないからなのかは少し考えておく必要があるというご指摘でした。

ほかにいかがでしょうか。

○牧野委員 これを見せていただいて、なるほどと思うところがいっぱいあったのですけれども、特に、5/5の市民ワークショップ「話そう！さっぽろの未来」実施報告の左の下から2番目のバリアフリーの整備、点字ブロックや障がい者向けの宿泊施設等、障がい者も健常者も両者が利用しやすい施設をつくれば快適に過ごせるということについてです。

私からは障がい当事者の立場でお話しさせていただきます。

宿泊施設もそうですし、店舗などのバリアフリー調査なんかに行きますと、今、車椅子の人が入れるような通路幅にする、あるいは、どこにも手が届くようにするなど、配慮がされているのですけれども、視覚障がい者に対する点字ブロックや点字の表示についてはまだすごく足りないような気がしています。

札幌のまちなかでは、せっかく点字ブロックが敷かれていても、除雪で削られてしまい、傷んでしまっているところがよく見受けられますので、そういうことについても一つの視点とし、これからのまちづくりに生かしていただきたいと思えます。

○平本会長 ご指摘はそのとおりで、いろいろな障がいの方がいらっしゃり、視覚障がい者の方に対する配慮も必要だということでした。

ほかにいかがでしょうか。

○中田委員 資料1-1の2/3の現在までの充実度の1に北海道の食の魅力を生かした

食産業が発展しているという項目があり、3／3の今後の重要度も2番目が1番目と均衡する形で北海道の食の魅力を生かした食産業が発展しているという項目が上位に挙がっています。

こうした現在も充実しているけれども、今後も重要だというものに関し、こういうものが足りないのではないか、あるいは、なぜ重要視しなければいけないのかというご意見がもしあったのであれば具体的に教えていただければと思います。

○事務局（本山企画課長） アンケートに自由記載欄がありまして、経済分野についてもコメントをいただいているのですけれども、今の視点というより、食べ物がおいしいということがあるので、食文化に力を入れ、世界に向かって発信していったらどうかというような趣旨のコメントがありました。

市当局としても経済分野において食は重要な位置づけを持っていると考えておりまして、今回のビジョンの中でも、基本目標を含め、位置づけを明確にしたいと考えております。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○佐藤（理）委員 重要度については、地域と子どもが「高い」と「低い」ですごく分かれています。これは関わりがあるのではないかという話がありましたよね。少子高齢化の中では地域づくりが本当に大きなポイントになるかと思うのですが、地域の重要度がすごく低いという結果で、非常に残念だなと感じています。

先ほどの質問へのお答えとして、地域の中でも若年層ほど重要度が高いとお答えになっているとありましたよね。地域づくりについては割と年配の方たちが重要に思い、関わってくださっているというようなイメージがあるのかなと思っていたのですが、若い方たちがどんな思いで重要度が高いとお答えになっているのか、もしコメントがあればお聞きしたいと思います。

○事務局（田中企画係長） コメント自体はあるのですけれども、年代が分かっていないものですから、若年層がどう答えたかについては、大変恐縮ですが、この場ではお答えできません。

○事務局（本山企画課長） アンケートのほかにワークショップをやっており、そこに若い方も参加しているのですが、発言を聞いていますと、災害などがあつたときに地域の助け合いがすごく大事だということを若い方は特に意識されていて、地域が必要だという認識は非常に高かったのかなと思っています。

ただ、具体的に参加する機会ですね。これから市も頑張らなければいけないのですけれども、そういうものが若干不足しているのかなと考えております。

○平本会長 地域に関しては若い方が自由記述のところでのどのようなコメントを書かれているかがもし分かれば、後報で構いませんので、共有をお願いいたします。

実は、この報告のところはそれほど時間がかからないと思っていたのですけれども、委員の皆様から多くのご意見やご質問をいただくということは、この中身がビジョンをつくる上でとても重要だというご認識だからだと思うのです。その意味で、ご質問やお考えが

ほかであればいただきたいと思うのですけれども、いかがですか。

○定池委員 コメントです。

アンケートの概要版の3/3の今後の重要度では、割とソフト的なものの重要度が高いのですが、⑬-2や⑬-4の安全・安心のようなハードといいますか、物の整備やインフラの整備的についてはそれ以外と比べてちょっと高く出ていますよね。

私はほかの地域に住んでいる者ですが、札幌市の避難所の委員を以前にさせていただいたことがあり、札幌市はそういうところに熱心に取り組んでいるというイメージがあったのですが、市民の方にはそういうイメージがあまりないのか、例えば、胆振東部地震や今後の災害の予測などから不安が高いというギャップがもしかしたらあるのかもしれないなと感じております。

この件に関して何か補足があればいただきたいですし、個人的には今後の議論の中でそういう観点を持って臨みたいと思っております。

○平本会長 ちなみに、今、事務局からカンペが入りまして、アンケートの概要は、今日の6時に市のホームページで公開されるということですので、そちらをぜひご覧いただければと思います。

それでは、今のご質問に対し、事務局からコメントをお願いいたします。

○事務局（本山企画課長） 今のご指摘を含め、後ほど整理をさせていただき、情報提供させていただければと思います。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○大西委員 お伺いしたいのは、今回の回答率についてです。

前回の第1次するときにも同じようなアンケートをされていたのであれば、回答率が今回と比べてどのくらいであったのかを比較してみたいはいかがでしょうか。地域のところではまちづくりに参加するという話がありますが、こういうアンケートに参加をするというのはまちづくりへの参加の意識が高いことの現れのような気がしますし、回答率が上がっていれば、まちづくりへの参加の意識が高まっているという評価をできる可能性もありますよね。

ですから、第1次で同じようなアンケートをされているのであれば、その回答率がどうであったかをお伺いします。

また、今回、郵送によるアンケートとウェブアンケートという手段を用いられていると思うのですが、その回答の比率がどうであったのかを教えてくださいたいと思います。

なぜかと申しますと、行政のICT化など、デジタル的な話についても項目がありますが、ウェブアンケートからの回答が多いということになると、恐らく、ICTに関するリテラシーが比較的高い人たちからの回答となると思うのです。というのも、結果の評価に関してやや注意が必要になるといいますか、ICTに関する部分をあまり課題として考えられていないような回答になる可能性もあると思うからです。

以上、前回と回答率が比較できるのか、また、ウェブと郵送の比率がどのくらいかを

伺います。

○事務局（田中企画係長） まず、前回との回答率の比較についてです。

前は、同じく1万人に対して郵送アンケートを行い、回答数が2,723人ですので、27%強となります。ですから、今回のほうが少し低いということです。

今回は、郵送でアンケート用紙を送りまして、郵送またはウェブでの回答をご選択いただきました。それに対し、ウェブが600人強で、郵送でご回答いただいたのが1,670人強となっております。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○吉岡委員 資料1-2の市民ワークショップの中で注目したのは、2/5と書いてあるところの右側です。先ほど地域のことについてのご意見が委員から出されましたが、私もこの市民ワークショップの2/5と書いてある資料の右側の③の地域分野に関する主な意見のところ町内会という言葉が非常にたくさん出ているところに注目しました。

札幌市では町内会がとても大きな財産であるということを市民も理解されているのだなと思いましたし、その中で、若い人たちがもっと町内会に関わっていったらどうかというようなご意見もたくさん出ていますので、若者と町内会をつなぐ取組については、もう既に進めているものもあると思うのですが、さらに積極的に進めていくことへの市民の側からもリクエスト、要望があるのだろうかと思いました。

また、同じ市民ワークショップの4/5と書いてある資料の右側の⑦の環境分野に関する主な意見のところは、下から4行目に市内各区に農業体験や自然体験できる場所を置き、教育に組み込むとありますが、札幌らしい教育を考えると、こうした声をぜひ生かしてほしいなと思います。

いろいろなアプローチの仕方があるのですが、札幌らしい教育ということで、農業体験や自然体験の専門の職員を学校に配置するなど、この市民のご意見から札幌らしさのイメージが膨らみましたし、わくわくした気持ちになりました。

○平本会長 町内会の話のほか、農業体験、自然体験を教育に生かしてはどうかということでした。

ほかにいかがでしょうか。

○浅香委員 設問の中身が分からないものですから質問します。

アンケート調査の概要版の3/3の右側の真ん中辺にある⑱-2のスポーツや運動を気軽に楽しめる環境が整っているとあり、同じ文章が下から八つ目の⑲-2にあるのですが、設問の仕方でこういう区分けにしているのか、教えてもらえますか。

○事務局（田中企画係長） ⑱-2は、魅力的なスポーツ関連イベントが活発に開催されているという設問でした。おわびして訂正させていただきます。

○平本会長 記載の間違いということですか。

○事務局（田中企画係長） はい。真ん中にある⑱-2がスポーツや運動を気軽に楽しめる環境が整っているという設問です。

○平本会長 下から8番目の⑱-2が間違っていたということでした。

○事務局（本山企画課長） 今回、アンケートでは、現ビジョンの基本目標を定めていまして、今、目指す姿、まちの姿を考えていただいているのですが、その項目に沿って聞いております。

今回は記載が誤っていたということで、大変申し訳ございませんでした。

○平本会長 この報告について、ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○平本会長 想定以上に委員の皆様方からご意見やご質問等をいただきました。こういう市民の声がビジョンに反映されることが重要だと思っておりますので、今後のご審議の上では、こういったデータを適宜見返しながら議論を進めていけたらと思っております。

引き続きまして、（2）の議題①の都市像に進みます。

まちづくり戦略ビジョンの上位概念となります都市像ですが、7月に行われました第2回の審議会において皆様から様々なご意見を頂戴したところでございます。そのご意見に基づき、事務局で整理をしていただき、本日、その案を示していただきますので、活発なご議論をいただければと思っております。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（本山企画課長） まず、本日の議題がまちづくり戦略ビジョンのビジョン編のどの部分に該当するのかを確認するため、参考資料1をご覧くださいと思います。

ビジョン編は第1章から第5章までの構成となっております。今回は、ビジョン編の第3章に当たる都市像についてご確認をいただいた後、議題②として、第4章に当たるまちづくりの基本目標についてご議論をいただきたいと思いますと考えております。

それでは、早速、議題①の都市像の説明をさせていただきます。

お手元の資料2をご覧ください。

都市像については、7月の審議会において、一旦の案として、これまでの都市像を踏襲する形でのご提案をさせていただきました。委員の皆様からは、札幌らしさを出して、市民の共感を呼び込めるような魅力ある書きぶりにしたほうがよいといったことのほか、雪についてのポジティブな発信、自然の豊かさという特徴、そして、市民力の発揮といった点について主にご意見をいただきました。こうした意見を踏まえ、今回は新しい都市像として三つの案をご提案させていただきます。

新しい案の一つ目は、「『ひと』『ゆき』『みどり』の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ」です。

この案は、札幌市の特徴として、札幌らしさを「ひと」「ゆき」「みどり」で表しています。

また、前回ご提示をさせていただきましたまちづくりの三つの重要概念として、ユニバーサルが意味する「支え合いやつながり」を「織りなす輝き」と表現するほか、ウェルネ



スを「豊かな暮らし」とし、スマートを「新たな価値を創る」と表して、これらにより未来を開き、持続可能な都市モデルをつくり、世界をリードしていくことを表現しております。

色分けは、資料の右下の重要概念に記載のとおり、ユニバーサルは黄色、ウェルネスは緑色、スマートは紫色と対応しております。

新しい案の二つ目は、「誰もがつながり、支え合って、生き生きと活躍し、新たな価値の創造に向けて挑戦できる、持続可能な世界都市・さっぽろ」です。

これは、案①よりも人に着目をし、誰もがという表現から始めております。

最後の新しい案の三つ目は、「誰もがつながり、支え合って、生き生きと活躍し、新たな価値の創造に向けて挑戦できる、『ゆき』と『みどり』の世界都市・さっぽろ」です。

これは、案②を踏襲しつつも、札幌らしさとともに、特に環境面での持続可能性の実現を表す案となっております。

資料の右側には、第3章の都市像の解説文のイメージと都市像に続けて掲載するまちづくりの重要概念を記載しております。

都市像の解説文では、これまでの札幌市の歩みをまとめ、現在の状況、そして、都市像につながる今後に関する考え方を記載することを考えておりますが、このような解説文がなくてもどのような都市を目指すのかが分かる都市像にしたいと考え、解説文とは切り離して三つの案をご提示しております。

なお、今回の案を内部で検討した際には、雪について、除排雪等の大変さや生活や移動への影響など、プラスのイメージを持たない市民の方も一部いらっしゃることから、都市像に掲げることを懸念する意見もありましたことをお伝えいたします。

○平本会長 新案として三つをお考えいただいたわけですが、今日は、ざっくばらんに、いい、悪い、こうしろというご意見をいただければと思っております。特段、ご指名はいたしませんので、ご自由にご発言をいただければと思います。

それでは、高橋委員、山本一枝委員の順番でお願いいたします。

○高橋委員 まず、三つの新案のご提案をありがとうございます。

私は、新案①に賛同いたします。

理由は、まず、「ひと」「ゆき」「みどり」と、平仮名で始まっている言葉が非常に目を引くということと記憶に残るなど考えました。また、この文章全体が札幌らしさをよく表しているように思いまして、前回の会議で出ました都市像案に対する意見を非常に具現化していただいているようにも思いました。

○平本会長 では、山本一枝委員、お願いします。

○山本（一）委員 私も新案①はとても美しいイメージが頭に浮かぶと思いました。

ただ、D O というのはですか、何かをするということに着目しましたところ、新案③の「活躍し」や「挑戦できる」という言葉の強さ、積極性に何かの価値があるのではないかと思います。

また、「ゆき」と「みどり」については「みどり」と「ゆき」にしたほうが札幌らしさを表現できるのではないかと考えます。ですから、新案③の「ゆき」と「みどり」が反転した状態のものがいいかなと思いました。

○平本会長 このようにご自由にご意見をいただくのがいいのかなと思っています。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、柴田委員、原田委員の順番でお願いいたします。

○柴田委員 僕は、新案②と新案③の「誰もがつながり」というフレーズに引っかかっています。つながることに対してはポジティブな意見だけではないのではないかなという気がすごくするのです。

僕自身、今、コロナ禍によりインターネットで世界とつながり、スタッフとも顔を合わせないで事業をやっているのですね。しかし、そこではハッキングに遭ったりということもあって、つながるのが必ずしもプラスではなかったのです。ですから、つながるための何かとありますか、どういう人とどうつながるかをデザインしていくことが重要だなと思っています。ただ、その後ろのフレーズはいいなと思いますね。

○平本会長 誰もがつながりという部分に少し検討が必要だということですね。

それでは、原田委員、お願いいたします。

○原田委員 私からは2点です。

1点目は、ウェルネス、健康という言葉で示されているところなのですが、非常に表現がパッシブというか、受け身的というか、もう少しポジティブな表現があってもいいかなと思っています。ぜひスポーツの文言を、それからアクティブライフ的な表現がこの中に入ると、もう少し能動的に健康を実現していこう、ウェルネスを実現していこうというようなニュアンスが伝わるのかなと感じました。

それから、2点目は都市像案ですが、「持続可能な世界都市・さっぽろ」とまとめるのは平易な感じがします。決意を示す意味でも気候変動への取組や脱炭素ということを出したらどうかな、という感じがします。

ニセコスキー場もまだオープンできておりませんし、札幌でも雪が降らないという状況というのは、何か、終わりの始まりのような感じがしております。

○平本会長 ウェルネスをもう少し具体的にしてはどうかということと、持続可能なということをもう少し前向きに表現してはどうかというご意見でよろしいですか。

○原田委員 そのとおりです。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○定池委員 私も、ほかの委員の方がおっしゃったように、新案①にぱっと目が引かれたのですけれども、よく読んでみると、②と③では、「誰もが」という表現で、市民が主役だと分かりますよね。このように市民が主役であるということが前面に出ている表現で、かつ、「ゆき」と「みどり」という順番で、これは季節の順番から夏、冬のほうがいいのかなということだと思いましたが、市民が活躍して、市民が主役であり、自然と調和した都

市であるというニュアンスも出ている文面でいいのかなと思います。

そうしたことも含め、新案③の「ゆき」と「みどり」の順番を入れ替えれば、これがいいのかなと思っています。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

中田委員、お願いいたします。

○中田委員 非常に悩んでいます。最初は新案③と考えたのですが、最終的には新案①としました。ただ、できれば、折衷案みたいなものはないのかとも考えています。

なぜかという、まず、札幌の特徴は何かを考えたら、やはり四季がはっきりしていること、そして、190万人を超える人口の割には非常に自然が豊かであるというようなことがあるかと思っています。そういったものの札幌の特徴を捉え、「ゆき」と「みどり」を平仮名でということ。ただ、それだけではなく、「ひと」が間に入って、また、「織りなす輝きが」というのはすごく粋な表現だなと感じました。

ほかには、「新たな価値を創る」についてです。

新たな価値をつくることは必要だと思うのですが、新たな産業に向かって挑戦する、若い人たちが起業するというイメージでしょうか、もっと挑戦的なことも少し加えたらどうかということもあって新案③も考えたのですが、そういった能動的な表現を新案①に、例えば、新たな価値に向けて挑戦できる持続可能な世界都市・さっぽろというようにしてはどうかとも思っています。

○平本会長 基本的には新案①をもう少し能動的にというご意見ですね。

いっぱい手が上がったので、では、牧野委員、山中委員、山本強委員の順番でお願いいたします。

○牧野委員 お先に失礼します。

新案①に「ひと」と入っていますが、これはすごく重要だと感じています。今、IT化が進んできていますけれども、これからの時代にも必要なものは人間であって、マンパワーについても忘れてはいけないもので、札幌のまちをみんなが住みやすい優しい環境にするためには、ハード面だけではないということですね。

「ゆき」と「みどり」はもちろん、人は欠かせないなと思いますので、私としては「ひと」という言葉を入れていただきたいと思っています。

○平本会長 それでは、山中委員、お願いいたします。

○山中委員 今、牧野委員のご意見にあったように、「ひと」は重要だと思っています。でも、それも生かしながら、新案③の主語が人になっているところは生かしたいとも考えています。

その上ですが、まず、世界都市とはどういう都市なのかが分かりません。例えば、国際都市ならば誰しものがイメージできますよね。いろいろな人たちが来るのだな、集うのだなと分かるのです。それも踏まえ、世界都市を英語にしたときにどうなるのかが浮かばないのです。それよりはインターナショナルシティのほうが分かりやすいので、国際都市かな

ということです。

それと関連するかどうかは分かりませんが、新案の話とは別に、右側のほうについて一つだけ意見を言わせていただきます。

今後のところに全部が拠点となると書いてあるのですが、こういう人たちが住むのだということであって、主語を逆転させてほしいと思うのです。こういう拠点になるからこんな人が住めるのだ、みたいなことですね。多様な人が交わり、一人一人の思いがつながって、最後に拠点になるという都市像よりは、こういう拠点なので、多様な人が交わり、一人一人の思いがつながるといふほうがより市民目線な言い方になり、そういう人こそがウェルカムであり、インクルーシブな人々を迎える都市なのだといふ温かみを置きたいのです。

これでは、温かみというより「人々は都市のために働け」みたく聞こえるように思うので、お願いしたいと思います。

○平本会長 日本語は難しいですね。主語と述語を逆転させるだけで、インクルーシブではなくなってしまうニュアンスを与えるというご指摘かと思えます。

それでは、山本強委員、お願いいたします。

○山本（強）委員 私は日本語が下手でして、どれを見てもほとんど同じに感じています。ですから、皆さんのご意見を尊重してほしいのですが、見たところ、二つの重要な言葉があると感じています。それは、「創造」と「挑戦」でして、これはぜひ入れてほしいなと思っています。

もう一つ、僕は新案③が魅力的だと思っていて、「新たな価値の創造に向けて挑戦できる」ですが、「できる」という言い方が役所的だなと思うのですよ。これは「する」ですよ。「できる」だと誰かがやってくれるのですよねという感じがします。ですから、「する」にして、札幌というまちがそう宣言するというニュアンスに変えていただきたいなと思います。

○平本会長 お役所的と言われると、確かにそんな気がいたします。それから、「挑戦」と「創造」は重要なキーワードではないかというのもおっしゃるとおりだと思います。

ほかにいかがでしょうか。

今日は、この三つの中で採決しようということは思っておりません。今日のご意見を踏まえ、改定することも含めてご意見をいただいておりますので、どうぞご遠慮なくご発言をいただければと思います。

○佐藤（理）委員 結論から言うと、③がいいなと私も思いました。この三つを見たとき、「誰もがつながり、支え合っ」というところですね。札幌市は大都市化しており、人と人とのつながりがなくなることで生活にいろいろと支障が出てきている現状ですが、人と人がつながり、それで安心・安全に、あるいは、いろいろな地域が生まれてくるのかと思ったので、「誰もがつながり、支え合っ」がいいなと思いました。

②にも同じ文言が入っているのですけれども、③には、「ゆき」と「みどり」とあり、

札幌の魅力が物として見えるというか、イメージしやすいのかなとも思います。

「ゆき」については、意見にもありましたけれども、悪いことではなく、ポジティブないいイメージで捉えることも必要で、「ゆき」と「みどり」というセットにすると、そう捉えられるかなと思ったので、③がいいかなと感じました。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○尚和委員 このたびは、ご提案をありがとうございます。

まず、「ゆき」と「みどり」というワードはとても分かりやすく、札幌市の自然の豊かさを誰もが再認識し、また、人と自然とがそれぞれ輝いて、共生していく姿勢を表現できているので、いいワードだなと思いました。

また、「持続可能な」という言葉が新案①と親案②に入っていますが、それはこれからとても重要なワードになるものではないかと思しますので、入れていただけるとよろしいのかなと思いました。

それから、新案②と親案③に「誰もが」という言葉が入っていますよね。先ほどのワークショップの報告の際も市民の方からご意見がいろいろとあって、全ての市民が自分らしく生き生きと暮らせるまち、誰一人として孤立しないまちというようなご意見があったということですが、そういったことを表す言葉としてあったほうがよろしいと思いました。

また、ウェルネスの表現の緑色の部分については、「豊かな暮らし」というよりも、「生き生きと活躍し」のほうがより前向きで力強いワードではないかなと思いました。

このように、それぞれにいいワードが散らばっており、どれを選ぶかは難しいところです。全てが入っているものとするとな案③なのかなと思ったのですが、先ほどほかの委員がおっしゃっていましたけれども、最後に「『ゆき』と『みどり』の世界都市・さっぽろでまとめるよりは文章を逆転させたほうがよろしいのかなと思いました。

○平本会長 これは、①から③をうまく融合すると、とてもいい都市像案ができそうな予感がしてまいりましたが、ほかにご意見はございませんか。

○梶井副会長 一委員として私も意見を言わせていただきたいと思います。

私は、新案①の「ひと」「ゆき」「みどり」という表現が印象的でした。「ひと」が最初に立っていて、その後、札幌らしい「ゆき」があって、自然を表す「みどり」が続きます。人と自然のハーモニーが感じられて、札幌の都市の特性がうまく出ているように思います。「ひと」「ゆき」「みどり」というのは語呂がいいですね。これはすぐに覚えられし、みんなに受け入れられることがすごく重要だと私は思っています。それに、札幌の市民憲章とも響き合うような感じがしますね。「織りなす輝き」という言葉もいいなと思っています、私は新案①を推したいと思いました。

また、ここでたくさんのお思いを入れ込み過ぎると難しい状況が生じることもあると懸念しています。例えば、市民の中には、難病のために動けない人もいらっしゃるでしょう。外に出られない状況の若者もいます。「生き生きと活躍し」というポジティブな面を強調しすぎることに配慮が必要ではないでしょうか。

誰が見てもわかりやすく、受け入れられやすい都市像が良いと思います。

○平本会長 今の梶井副会長のご指摘はとても重要ですね。我々は、どちらかという、積極的に、前向きにというようなことばかりを考えがちですけれども、全ての市民にとって受け入れられる都市像とは何なのかを考えてはどうかというご指摘でした。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○吉岡委員 私も、新案①から新案③を拝見し、どれがいいかなとすごく悩みました。最初は、新案①の「織りなす」という言葉がすてきだなと思いましたが、今、皆さん方のご意見を聞き「なるほどな」と思いました。ただ、今、梶井副会長がおっしゃったように、「織りなす輝き」のほか、「ひと」が一番先に来て、なおかつ、「ゆき」と「みどり」という札幌の特徴があって、それが「織りなす」というのは非常にインパクトがあるなと私も改めて思いました。

また、「『ひと』『ゆき』『みどり』の織りなす輝き」の「輝き」というのは「ひと」と関わって、リンクして、ここに置かれているのだろうなと取りました。そして、豊かな暮らしと新たな価値というのは人がつくるといえることですね。市民一人一人がいろいろな意味での新しい価値をつくっていくということで、これもすてきだなと思いましたが、新案①に共感できることが多いと感じています。

ただ、少し気になったものもあります。

真ん中辺りにある一つ目の黒丸の「新しい時代にふさわしい真に豊かな暮らしを創る」と二つ目の「経済や学術」の文にある「投資を呼び込み」という言葉です。これは非常に大事な要素だと思うのですが、投資という言葉がいいのかどうか、少し工夫したほうがいいかなという印象を持ちました。

また、その下のユニバーサル、ウェルネス、スマートの線で囲っているところです。

バリアフリー、ダイバーシティ、インクルージョン、レジリエンス、ウオーカブル、ゼロカーボンという言葉は私たちも日常的に使いますが、果たしてそこまで定着しているのかなという印象がありますし、片仮名用語がちょっと多過ぎませんかという印象です。皆さん、どうでしょうね。もちろん、使っても構わないし、その後に注をつけるのでしょうから問題ないのかもしれないのですが、そこは少し注意を払ってもいいのではないかと思います。

○平本会長 片仮名用語については、確かに気になる方にとっては気になりますし、ほかの日本語にうまく置き換えられず、やむを得ず使っているところもあるのですが、本当にこういう用語でいいのかについては検討が必要だと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○浅香委員 私も基本的には新案①に賛成です。

その前に、アンケート調査の回答率の22%強というのが物すごく気になっていて、この戦略ビジョンというのは老若男女全ての市民のためのビジョンですね。アンケート用紙を送り届けても興味がない人がいかに多かったのかなと思うと、すごく残念だなと感じ

じています。

ただ、文字というのは入り口が一番大切だと思っています。これからの子どもたちや高齢の方に向けては、内容はどうあれ、「ひと」「ゆき」「みどり」というほうが入りやすい、覚えやすい、なじみやすいと思います。戦略ビジョンをつくられても、全部を読む方なんてほとんどいないと思うのですよ。ですから、この都市像の1ページ、2ページが大切だと思っていて、なじみやすい入り口をつけていただいたほうがいいのかなと感じました。

○平本会長 山中委員、お願いします。

○山中委員 先ほど言い忘れたので、申し上げます。

「持続可能な」ということはぜひとも生かしてほしいなと思っています。「持続可能」という言葉は、今、もう安っぽくなりつつあるような気がしないでもないのですが、やはり、札幌だけでは生き残れないというか、世界がつかれないのです。国際社会の一員としてという言葉を入れたのでしたけれども、そこは生かす必要があると思うのです。我々の暮らし方や札幌の在り方で世界が多少なりとも変わる、それはフェアトレードということもありますが、世界の一員という言葉がどこに残るかなと考えたとき、「持続可能な」というところで、そして、国際都市のほうが良いと思いますけれども、そういうところなので、「持続可能な」という、世界の中の一員という言葉象徴するという言葉は残してほしいと思っています。

○平本会長 「持続可能」を残してほしいというご意見です。

ほかにいかがでしょうか。

○佐藤(大)委員 せっかくなので、感想を言います。

新案①が良いなと僕も思っていたのですが、理解するのに随分と時間がかかりました。例えば、「ひと」「ゆき」「みどり」はすごくいい響きだなと僕も思ったのですが、これを基に具体的なことを考えたらどうかです。「ゆき」「みどり」はすごくすてきだけれども、それを具体的に生かす産業は観光に偏っていったらいいような気がしますし、大地の広さやその可能性の広さの全部を言っているわけではないのかなと思いました。

一方で、「ひと」というのは僕もすごく大事だと思っていて、人をどう生かすか、育てるかというのはぜひ入れていただきたいなと思っています。

また、新案②と新案③と新案①では随分違うなという印象があります。新案①は、新たな価値をつくるというか、積極的に新しいものをつくり出していこう、挑戦をしていこうというニュアンスに近いのかなと思う反面、素人目では、新案②と新案③で言っている「つながり」や「支え合って」というのはどちらかというと保守的で、困っている人たちも自分と違う人たちも支え合って、お互い協力しながら生きていこうということはあまり近くないと思ったのですよね。

例えば、新たな価値をつくる時は、お互いを認め合うことが大事ですが、支え合うこととは違うのです。その違いを認めた上で新しいものを考えていくというのが挑戦

ということだと思っていて、支え合うと言うと、多分、そのニュアンスではないのかなと。優しくて安心できるまちというニュアンスであれば新案②と親案③のほうに寄ると思いますが、皆様の意見を聞いていると、これをどちらに振り向けていくかが重要な軸になるのかなと思いました。

○平本会長 どちらのほうに振るのかはこの審議会で決するとか、方向性を決める必要があると思います。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 今回、事務局には大変に知恵を絞っていただき、この三つの案を出していただきました。その結果、今日は非常にいい議論ができたと思います。新案①がいいという方と新案③がいいという方でまずは大きく分かれていました。それから、それぞれの案にいいワードが散りばめられている、それから、落としてはいけないワードがあるというご指摘がありました。

事務局には、もう一頑張りしていただき、今日の議論を集約していただいて、いい文言に直していただくことをお願いします。

委員の皆様もそういうことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○平本会長 それでは、都市像についてはこれでおしまいいたします。

次に、議題②の基本目標についてです。

9月の各専門部会で皆様方からいただいたご意見に基づき、事務局で案を整理したということですが、本日はそれに基づいてご意見をいただきたいということです。

まずは事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局(本山企画課長) それでは、基本目標と目指す姿の一覧として、資料3をご覧ください。

本日は、各専門部会でご議論いただきました基本目標と目指す姿について、審議会全体で共有していただき、内容を固めていければと考えております。

左側の基本目標については、7月の第2回審議会以降に修正した部分を赤色の字にしております。また、右側の目指す姿については9月の専門部会以降に修正した部分を赤色の字にし、下線を引いております。

それではまず、子ども・若者分野についてご説明いたします。

委員の皆様からのご意見を踏まえまして、基本目標2には「伸び伸びと成長し」という表現を、基本目標3には「一人一人の良さや可能性を大切に」という表現を加えております。

次に、生活・暮らし分野については、基本目標4の目指す姿の1において、対象者が高



齢者に限定されるような印象を与える可能性があるとのこと意見がありましたことから、それを踏まえ、「あらゆる世代」と強調するようしております。

また、目指す姿の2について、活動の場はまちづくり活動や仕事だけではないことから、日常生活とボランティア活動の要素を追記しております。

次に、基本目標5の目指す姿の3では、デジタル格差を生まないという観点から、誰もが手続を完結することができるかと表現しております。

続いて、2ページをご覧ください。

地域分野については、基本目標6の目指す姿の1において、多様性の例示に宗教を追加しております。

次に、基本目標7については、誰もが関心を持つという表現は価値観を強要するような印象を与えるおそれがあるとのこと意見を踏まえ、「誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち」という表現に修正しております。

また、目指す姿の1においては、区役所及びまちづくりセンターの拠点機能を追記したほか、目指す姿の2では、基本目標と同様の趣旨で、身近なものとして市政に関心を持つという表現を「市政を身近なものに感じ、」に修正しております。

それから、目指す姿の3では、地域コミュニティの意義として、「良好な生活環境の維持につながる」と表現したほか、目指す姿の4では、地域の主体の一つとして、福祉のまち推進センターを追記しております。

次に、安全・安心分野についてです。

基本目標8におきまして、「災害に強い」という表現を「迅速に復旧復興できる」という表現に変更したほか、目指す姿の2では、「誰一人取り残されずに」と「市民に寄り添った支援」という文言を追記しております。

続きまして、3ページをご覧ください。

経済分野については、基本目標10に記載されていた「チャレンジできる」という観点が、特定の産業だけではなく、横断的な要素であることから、基本目標10から基本目標11に移動させております。

また、基本目標11では、オープンであることの重要性やつながりから生まれるチャンスについてのご意見を踏まえ、「開かれたまち」という表現を追記して、目指す姿の4にもビジネスチャンス等を追記しております。

さらに、基本目標12の目指す姿の2では、女性や高齢者等の具体的な属性を例示することによって限定的な印象を与えてしまうとのこと意見を踏まえ、「多様な人材」という表現に修正し、加えて、「こうした多様性が、イノベーションをもたらすきっかけとなっています。」という文言を追記しております。

次に、スポーツ・文化分野については、冬季だけでなく、年間を通じた観点が重要とのこと意見を踏まえ、基本目標14に「四季を通じて」という表現を追記しています。

また、基本目標14の目指す姿の1では、スポーツやトレーニング等で得られた知見を

市民に還元していくという観点から、「市民の健康づくりなどに生かされています。」という文言を追記しています。

続きまして、4ページをご覧ください。

環境分野については、基本目標16において、持続可能性を示す「サステナブルシティ」という表現を用いることとしております。

次に、基本目標17では、生態系との共生を意識しつつ、市民目線に近い表現となるよう、「身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち」という文言に修正しております。

また、目指す姿の1では、全ての人が対象であることから、「誰もが」という文言を追記し、目指す姿の2では、自己回復力を含む「レジリエンス」という表現に修正しております。

続きまして、5ページをご覧ください。

都市空間分野については、基本目標18の目指す姿の1で、「良好な景観」において札幌らしさを表現するため、「四季の変化が感じられる」を追記しております。

また、目指す姿の4では、冬季の気象に関わるレジリエンスを意識し、「四季を通じて、誰もが快適に利用でき、」という表現を追記しています。

次に、基本目標20の目指す姿の1では、計画的な維持・保全や複合化の結果として、「誰もが快適に利活用しています。」と明記しております。

また、目指す姿の2では、運営・維持管理のほかに、保全や更新なども含まれるため、「等」という文言を追加しています。

続きまして、6ページをご覧ください。

こちらは、都市空間の具体的なイメージと、都心や拠点、住宅市街地などの種別の定義を表す資料となっております。

そのほか、本日配付をしております参考資料4は、専門部会でいただいた市民・企業、行政が取り組むこと等に関するご意見を反映させた修正版、また、参考資料5は、専門部会での委員の皆様からのご意見に対する対応表となっておりますので、後ほどご確認をいただければと思います。

また、参考資料6には、バリアフリーや健康、環境など、分野をまたがる課題や観点についても整理して記載すべきとのご意見を踏まえ、例えば、目指す姿の関連部分に注釈をつけるほか、資料編にもその関連性を示すというイメージを記載しておりますので、こちらについても後ほどご確認をいただければと思います。

最後に、環境分野と都市空間分野の専門部会の部会長である高野委員は今回欠席となっておりますが、事前に専門部会での議論の反映状況について事務局から説明を行っております。その際に、参考資料4の基本目標18の市民・企業、行政が取り組むことに関して、一部、内容を分かりやすく表現したほうが良いというご指摘をいただいておりますが、今回お配りした資料はそれを修正したものとなっております。

○平本会長 基本目標と目指す姿についてですが、分野が多岐にわたっておりますので、一つずつご意見をいただきたいと思います。

まず、子ども・若者分野についてご意見がある方はお願いいたします。

○山本（一）委員 私は、子どもの幸せについてすごく一生懸命考えておりまして、何が幸せなのかをいろいろと調べましたらユニセフの報告書を見つけました。先進国の子どもの幸福度をランキングにしておりまして、日本の子どもの結果も出ております。子どもの精神的幸福度は、38か国中、37位ということに愕然としましたし、札幌市はどうかということも実は心配になりました。

体の健康については非常にいいのですけれども、精神的な幸福度と、スキルの部分では、学力のほうはいいのですけれども、社会的スキルを身につけているというところがちょっと弱いのです。これは日本の社会を反映してしまっているのかなと思っておりますし、都市環境が非常に厳しいということもあるのかもしれない。札幌市は、特に地方の出身者の方も多く、地方と違って親の支援がなかなか得られづらいということもありますし、親御さんたちも孤立しているのかなと思います。その結果、子どもの精神的幸福度も下がってくるのかなと危惧しております。

それから、精神的な部分のケアについていろいろと考えました。私は、母の介護をしているのですが、母については非常に細やかなサポートがあります。ケアマネジャーが必ずついておりますし、何か心配なことがあると電話ができる体制にもなっており、心配事を相談する人がいます。それから、介護にはショートステイというものがありまして、私は仕事をしながら母の介護をしているのですが、出張もできるような環境が整っております。

しかし、子育てをしている若い親御さんたちは、出張の間に安心して預けられる環境があるのかと考えたのです。また、子どもたちが安心して居られる場所があるのかもそうです。親御さん、そして、子どものケアも含め、仕組みをもう一回組み直してみてもいいかなと思います。

今までの保育所や幼稚園という短い時間の預かる場所ではなく、生活面全体について、困っている全ての方たちが安心していただけるような仕組みを考え直してはと考えました。

○平本会長 今の山本一枝委員のご発言について、細かい具体的な話は、多分、戦略編にきちんと書き込んでいくことになろうかと思いますが、基本目標2の辺りでは大体よろしいということで構わないでしょうか。

○山本（一）委員 言葉について言うと、2と3に精神的な、社会的なサポートということがあればと思います。つまり、困難な状況に応じたということだけではないと思うのですよね。常に安心して過ごせるような、困難ではない状況から、社会的なサポートがあって、どんなふうに住生活したら幸せを求められるか、どういう気持ちの持ち方をすればいいのか、昔で言えば、年を取った人や社会のいろいろな方たちがちょっとずつ教えてくれたことが得られていないのではないかということですね。ですから、困難な状況だけではなく、常にサポートを得られるといいですか、いろいろな場面で教えてもらえるということ

を含めていただきたいと思います。

○平本会長 多分、基本目標1には入っているのですが、最初の報告のところであった地域の話と子育ての話が実はリンクしていないことの問題も山本一枝委員がご指摘くださったと思います。今日の議題からはややずれるかもしれませんが、どこかで議論しなければいけないですね。

ほかにいかがでしょうか。

○高橋委員 資料が少し戻るのでありますが、アンケート調査の概要版の2/3の現在までの充実度の右の下から2番目に虐待やいじめ、不登校などに適切に対応する体制が整っていると出てきます。充実度が低かったわけですが、3/3の今後の重要度のところで左の上から5番目にまたそれが出てきます。ここから虐待やいじめについてはしっかりと取り組んでいかなければならないということ踏まえると、資料3に戻りまして、子ども・若者の基本目標2の「誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し」というところ、そして、基本目標3の「一人一人の良さや可能性を大切に教育を通して」という表現にされたのは重要なことだと思っております。

○平本会長 「伸び伸び」や「一人一人の良さ」というのはとてもいいということですね。

ほかにいかがでしょうか。

○牧野委員 私も、子ども・若者の赤色の字に変えていただいた言葉がすごくいいなと思っています。私は、子どもたちの福祉事業によく呼んでいただくのですが、先日行った学校では、中学生に障害者差別解消法とLGBTを知っている人はいるかと聞いたら、ほとんどの子が手を挙げてくれています。むしろ大人より子どものほうが知っているのだなと思って驚いたのですが、子どもへの教育はすごく重要だと思います。

障がいのある人をみんなはどう思うか、どういうイメージかと聞くと、みんなが口をそろえたようにかわいそうと言うのですよね。かわいそうだから何かしてあげなければいけない、こちらが何かをしなければいけないと思っているのですが、それは親が思っていることと違いますか、親の価値観が子どもたちにもつながっているのだなという気がしています。

いろいろなことを感じ、それを学んでいく教育というのはすごく重要だと思うので、この赤色の字にしている部分はすごく評価します。

今、いじめの問題にしても何にしても、核家族が増えて、昔のようにおじいちゃんやおばあちゃんが身近にいてとかではなくて、ある意味、孤独というか、寂しさから心のストレスがたまっていくということもあると思います。

私の周りにも障がいのある方たちがたくさんいるのですが、ある重度の障がいの子どもを産んだお母さんが言っていた忘れられない言葉があります。普通、みんなは子どもを産んだらおめでとうとすぐ言われますよね。それを言われなかったということです。また、深刻な顔をして、子どもの状況の説明を受けて、障がいのある子どもを産んだ罪悪感と将来への不安でいっぱい、その日は寝られなかったという話をしていたのです。

やはり、生きづらさとか、周囲の無理解により社会で生きてくためのつらさが増幅しているような気がします。好きで障がい者になった人なんかいないので、みんなが理解してくださるとか、障がいがあるからかわいそうではなく、いろいろな人がいて、いろいろな人が生きていていいのだということも知っていただきたいなと思いました。ですから、この部分はすごく共感します。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

それでは、定池委員、松田委員の順番でお願いします。

○定池委員 子ども・若者のところは、文言を変えていただいて、とてもすてきな言葉に変わったなという前提のコメントなのですが、気になっているところもあります。子どもに対しては、すごく手厚く、本当に温かいまなざしを持った言葉が並んでいるのですが、若者に対しては目指す姿が1個しかないのです。

私は大学生になって札幌に出てきたのですが、3歳の子どもがひとりで札幌に来て、全く放っておかれるということはないと思うのですね。何らかのつながりがあって暮らすことになると思うのです。でも、大学や就職で札幌に出てきた18歳や19歳の若者などは孤立するリスクがすごく高いと思うのですね。

「安心して過ごせる居場所をよりどころに」というのは、多分、そういう孤立のリスクを避けるような文言であると思うのですが、「社会的に自立し」と言うと、ちょっと冷たくなってしまふようなおそれがあるなと思ったのです。代替案が具体的にあるわけではないのですが、若者に対する温かいまなざしをもうちょっと付け加えられるとよりいいのかなと思いました。

○平本会長 確かに若者に対する言及が少ないので、それは検討が必要だと思います。

それでは、松田委員、お願いします。

○松田委員 私は、子ども・若者支援の現場にいますが、今、まさにおっしゃっていただいたところで、若者が安心して過ごせる場所をよりどころに社会とつながりといいますか、社会から離れていかないというイメージにさせていただけるとさらにいいかなと感じました。

また、基本目標1の1で、社会全体が子どもと子育てを支えているということが最初にあるのはとてもよくて、やはり子育てを家族任せにしないということをぜひ強調していただきたく思っております。

今だとヤングケアラーの問題があります。ヤングケアラーという言葉はここに出ていませんけれども、参考資料の戦略のほうに載っていますよね。基本目標2の1に「虐待やいじめなど、権利が侵害される事態」と書いているように、基本目標2の2にも支援や配慮が必要となるという具体的な文言が一つあってもよかったかなと感じております。

とにかく、子どもを育てるという営みを、要は、ヤングケアラーで言うならば、子どもがよりよいケアラーになるように支援するというのではなく、子どもや家族だけで家族の問題を解決しなくてよいような、逆の方向に行かないような家族支援を実現できればいい

いなと思っております。

○平本会長 それは大事なことですよね。「ヤングケアラーが増えてきているから、ヤングケアラーを支援しよう」という話になったら本末転倒ですものね。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 それでは、次に、生活・暮らし分野についてご意見等をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

何しろ、全部で8分野あるものですから、時間配分がなかなか難しいのですが、もしあれば遠慮なくご発言をいただければと思います。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 今すぐでなくても、もし後でお気づきでしたら、最後にご発言をいただくことにします。

それでは、次のページの地域分野についてご意見等をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山中委員 基本目標7の2番目の「誰もが市政を身近なものに感じ、積極的に参加しています。」という表現についてです。

実は、専門部会で意見を言ったのですが、おかげさまで、参考資料4の11ページの目指す姿の私たちが取り組むことの中に「政策立案の段階などにおける」という言葉を入れていただきました。これは、市民・企業などだけではなく、行政にも言えて、行政の政策立案の段階なので、これは両方に入れないとアシンメトリーになると思うのです。

これは専門部会のときに言ったのですけれども、市民・企業などと行政の二つに分けると、この二つがあって、対立みたいなイメージになるので、あまりよろしくないと思うのです。今回、ここにに入れていただいたのですが、もっと上の部分に上げて、つまり、目指す姿の中の2番のところで、「市政を身近なものに感じ」だけでは、やはり感じるだけということになりかねないので、もう少しちゃんと政策立案の段階から入りましょうよと。

これは別に難しいことを言っているわけではなく、今回も市民アンケートやワークショップを行っているわけですから、こういう姿勢をこのまちづくりに入れたらどうですかという意味合いなので、むしろ、ここは、元の提案のように、政策立案の段階におけるみたいなことで、そこから積極的にまちづくりに参加しているというような文言に変えたほうが分かりやすいのではないかと私は考えています。

○平本会長 目指す姿ですので、そういう札幌市の在り方のほうがいいのだというご意見だと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○佐藤（理）委員 7番ですけれども、ボランティアの活動については、個人ではなく、今、町内会やまちセンなどでやりますよ、こういうふうにやってくださいということで動いていることが多いかと思いますが、今後は、個人のボランティア活動も注目するところかと思いますが。参考資料4の11ページの目指す姿の1の市民・企業などのところに赤色の字で「ボランティア活動への参加や体験機会の提供」と書いてあって、行政にも「ボランティア活動の促進」とありますが、これは、団体としてやっていくものではなく、個人としての参加の機会も見据えた上での促進という意味で捉えていいのでしょうか。

○平本会長 私は、今、佐藤委員のお話を伺って、当然、そういうスタンスなのだろうと思っていたのですが、何か補足はございますか。

○事務局（本山企画課長） 委員のご指摘のとおり趣旨で書いております。

○佐藤（理）委員 個人の活動も含めた促進ということですね。

○事務局（本山企画課長） はい。

○平本会長 ほかにご意見等はございますか。

（「なし」と発言する者あり）

○平本会長 それでは次に、安全・安心分野についてご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山本（一）委員 基本目標8に「迅速に復旧復興できるまち」というものが付け加えられたのは、非常にいいと思うのですが、具体的には右側の目指す姿のところに非常に短い文言でしか入っていないのです。どのように迅速に復旧復興できるかというイメージがあまり湧かないですし、ただ市民に寄り添った支援という形になるので、もう少し具体的な何かが欲しいなと思っています。

また、冬期の災害も想定した備えを市民が持っているということですが、行政というか、公共施設や学校などについてもそうした備えが必要なのではないかなと思いますので、その辺の具体的な記述が足りないような気がします。

○平本会長 これは、どのくらいのレベルまで具体的に書くのかについてはビジョン編の中での最終的な統一が必要だと思うのですが、一方、冬期の災害も想定した備えというのは、市民なのか、行政なのか、市民が何をするのか、行政が何をするのがここだけだと分からないというご指摘かと思いますが。

今、申しましたように、ビジョン編、戦略編と具体度をこれから上げていこうということですが、どこかで今の山本一枝委員のご指摘が反映されることはとても重要だと思いますので、議事録にとどめておいていただき、必ず反映していただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○定池委員 今、山本委員におっしゃっていただいた基本目標8のところでは。

私も専門部会でお話をして、この言葉にさせていただいたのですが、ずっともやもやしています。8番の「防災・減災体制が整い、迅速に復旧復興できるまち」という言葉がどう

しても行政目線になってしまっているのと、ほかの基本目標に比べると、漢字が物すごく多くて、硬いのですよね。でも、多分、市民の方が親しみを感じる表現のほうが行政も市民も協働で一緒に取り組んでいこうねと思っていただけると思うので、言葉については私も一緒にもうちょっと考えたいなと思っています。

先ほどの山本委員の言葉にもあったのですけれども、柔らかく言うと備えだったり回復だったり、復旧復興というとき、インフラの回復もあるのですけれども、それだけではなく、私が関わっている復興の業界だと、リバイタリゼーションや再活性化といいますか、ただ回復するだけではなく、元気づくというニュアンスの言葉もあります。それをここに入れるかどうかはあるのですが、ただ回復するだけではなく、一人一人に寄り添うというところにもつながると思うので、基本目標は目指す姿と合わさるいい表現の言葉を練っていけるといいのかなと考えております。

○平本会長 ぜひ定池委員に言葉の件も含めてお知恵をいただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○中田委員 もしかしたら、安全・安心というよりは、後ろのほうの都市空間に近いものも多少あるのかなと思うのですけれども、先ほどのアンケート調査の今後の重要度を見ますと、⑬-4の耐震化や水害対策等のインフラ的な部分に関してかなり関心が高いなという印象を受けました。それを考えてみますと、安全・安心の項目はソフト的な、といいますか、もし災害が起きたらどうしようか、被災しないために市民としてどうしたらいいだろうかというような視点で書かれていると思うのです。その一方で、都市空間なのかは分かりませんが、そのために、インフラの建物や土木構造物を耐震構造にするなど、災害を起こさない、防災、減災を充実させるということもある意味重要なのかなと考えておりますし、そういったことに触れていただいたほうがアンケートの結果を反映できるのではないかなという印象でおります。

○平本会長 今、中田委員がご指摘くださった点は目指す姿を少し直すというイメージでしょうか。

○中田委員 そうですね。その中に防災、減災に資する社会インフラの整備みたいなことに触れられるような文言を、この部分で触れるのがいいのか、都市空間の中で触れるのがいいのかは分かりませんが、両方に関係するものだと思うのです。

○平本会長 専門部会の区分でいろんなところに関わる話が切り分けられてしまっているという問題があるのですよね。

○事務局（本山企画課長） 参考資料の基本目標8の目指す姿のところに米印を加えておりまして、防災・減災対策ということで、耐震化や大規模停電、浸水対策もそうですけれども、私たちが取り組むことの行政の1番の上から五つ目にも、公共施設、上下水道、道路などの耐震化、停電対策、浸水対策の実施ということで、都市空間もそうですが、いろいろと記載をしております。分かりにくくて申し訳ないですが、こちらの分野でもそういう書き込みをさせていただいております。



○平本会長 参考資料を見ると、もう少し細かいことが書かれていて、行政の5番目のところにも書いてあるということですが、中田委員、よろしいですか。

○中田委員 はい。

○平本会長 とても重要なご指摘だったと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 駆け足で申し訳ありませんが、次に、経済分野についてご意見をお出しいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○佐藤(大)委員 経済の基本目標11の「多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支える、開かれたまち」というのはちょっと詰め込み過ぎかな、少し分けてもいいのかなと思いました。つまり、「多様な主体と高い生産性」とその下の「チャレンジできる文化が経済成長を支える」とでは内容が随分違うような気がするのですね。例えば、後半の「チャレンジできる」という状況は、文化というより環境かなと思うのですが、それが経済成長を支える、チャレンジできるというニュアンスになるといいなと思います。

また、残った上の部分の「多様な主体と高い生産性」というのも、もちろんおかしくなく、そうだなと思いつつも、あえて殊さらに目標として掲げるほどの課題感があるかなというのは個人的に思いました。

というのも、1に書いていただいているように、中小企業や小規模事業者への配慮や意識から多様な主体という言葉が入っているのかなと思うのですが、ほかの地域に比べ、札幌は、もともと、そういう小規模事業者が多く、元気なイメージがあるかなと思うのですね。それで、あえてそれを強調する必要があるかなと思ったということです。

また、高い生産性については、IT、ICT、AI、IoT、そういう産業が札幌でも、ということがあると思うのですけれども、これも札幌だからということにつながりにくいといえますか、どの分野でも、どの世界でも、あるいは、どの地域でも生産性を上げることの重要性は言われているので、ここら辺の重要度というのはどうかな、という感想を持ちました。

○平本会長 殊さら目標にするほどのことではないかもしれないというご指摘かと思えます。私も経済の専門部会にいましたが、ここは難しいところですね。今すぐ私の結論は出ないですけれども、ご指摘をありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

○山本(強)委員 今の佐藤委員のお話については私も思うところの一つあります。といいますのは、「多様な主体と高い生産性」というのは、非常に抽象的というか、もちろん大事なのだけれども、ここで基本目標とするのだったら、ある種の明快な言葉を入れたほうがいいと思うのですよね。

というのは、今、国がデジタル田園都市国家構想という大方針を出して、この先、科学技術基本計画とも関係するのですけれども、デジタルシフトをするということを明快に言っているわけです。私もそちらの人間だったこともありますが、むしろ、「多様な主体と高い生産性」については、例えば、デジタル情報基盤を活用したなど、そういうふうにはずばって言ってしまったほうがいいのではないかと私は思うのですよ。多分、佐藤委員が思ったことはそういうことではないかと思うのです。

何がいかには何も言えないですし、DXという言葉が非常に言われるのだけれども、それをイメージして私流に言うと、デジタル情報基盤を活用した何とか、何とかとしか言いようがないのだけれども、もう少し明快にデジタルシフトするということを言っただけかというのが佐藤委員の意見を受けての私のコメントです。

○平本会長 DXという言葉が巷に氾濫していて、しかも、そのDXが何なのかの実態がよく分からず、経産省の報告書を読むと、ますます頭が混乱するという状況ですよね。どういう言葉がいいのかは私もすぐに出せないのですけれども、今、佐藤大輔委員と山本強委員がご指摘されたことはとても大事なことです。このままだと、あまりにもありきたりだし、何をすることが結局は分からないでしょうということですよ。生産性を上げるにしても、デジタル基盤を活用しないと、飛躍的な生産性の向上にはつながらないばかりか、2025年の崖という議論もありますけれども、そういうマイナス面もあるのだということを考え、少し文言を整理する必要があるかということかと思えます。

ほかにいかがでしょうか。

○山本（一）委員 私も非常に賛成です。

実は、札幌市で働いている方たちのお給料は全国平均で見ても結構安いのですよね。それをどうやって上げるかということになります、やはり高い技術や情報基盤を活用するしかないのではないかと考えています。

もう一つは、脱炭素のいろいろな試みを経済的な支援をしながら進めていくことで高い賃金がもらえる事業を増やすという形が見えてくるのではないかと思いますので、山本委員のご意見に大変賛同しております。

○平本会長 この文言を考えて、そういった趣旨が反映されるように直す必要がありそうですね。

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○平本会長 それでは次に、スポーツ・文化分野についてご意見があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○原田委員 私からは、1点、お願いしたいことがあります。

14番の「四季を通じて誰もがスポーツを楽しめるまち」は、非常に分かりやすい表現になったと思います。その中の2の「スポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、」の後

に「スポーツツーリズムによって地域経済が活性化します。」とぜひ入れていただきたいなどと思います。

全体的に観光があまり強く表現されていませんが、これは北海道の基幹産業だと私は思っております。2030年までにスポーツツーリズムという概念が非常に重要になると思いますので、基本目標14の2は「スポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、スポーツツーリズムによって地域経済が活性化しています。」に修正いただければなと思った次第です。

○平本会長 スポーツツーリズムというワードを追加してはどうかというご意見です。

先ほど来申し上げますように、ビジョン編での表現の抽象度のレベルをそろえるという観点からご検討をいただきたいと思います。ただし、今、原田委員がおっしゃった札幌市の基幹産業であるということは間違いないので、そういったワードをどこかに入れられればいかなと思います。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、川島委員、柴田委員の順番でお願いいたします。

○川島委員 まず、基本目標14について、「スポーツで得られた知見が」というところの文言を追加していただき、本当にありがとうございます。

先ほど来の市民アンケートの中では、特に、スポーツ・文化については充実度が高く、重要度はそんなに高くないというような結果が出ていましたが、皆さんもご存じのとおり、子どもたちの体力は著しく低下し続けており、特に札幌、北海道は低い状態になっています。ここでは「知見が市民の健康づくり」とまとめられており、ここに含まれていると思うのですが、子どもたちの体力の向上のニュアンスも含めた形で考えていただければいいのかなと思っております。

また、全体を通して、ここにも入っていますけれども、目指す姿のところに「誰もが」という文言が多用されておりまして、10か所以上に入っております。また、先ほどの都市像の新案②と新案③も「誰もが」から始まっているので、このところのニュアンスを変えることができないかなと思いました。

○平本会長 文言が追加されてよかったという話と子どもの体力ということもどこかに入れるべきだということです。そして、「誰もが」が多過ぎるので、場合によっては整理が必要だというご指摘ですね。「誰もが」については実は私もちょっと気になっておりました。

柴田委員、お願いします。

○柴田委員 僕は最初から疑問に思っていることがあります。基本目標13から基本目標15がスポーツ・文化ということですがけれども、スポーツが二つ、文化が一つとなっていますよね。札幌市の予算ではスポーツが2で文化が1みたいなバランスが決まっているのでしょうか。

○平本会長 それは重要なご指摘ですよ。

○柴田委員 僕は、芸術・スポーツ文化学科の芸術・スポーツビジネス専攻の担当なので、これは学生に対してのスタンスでもあります。

○事務局（本山企画課長） そのような枠組みというか、決まったものはございません。

○柴田委員 明らかにスポーツに対して特別に考えているというバランスに見えて、非常に文化差別だと感じています。これは、札幌市の文化への姿勢がこれであると非常にまずいと思っています。うちの大学の場合は、スポーツ文化、それから、芸術文化ということで、二つの文化として捉えていまして、僕の科は、芸術・スポーツビジネス専攻で両方を学んでいる学生が一緒に入っているのですね。

ぜひお願いしたいのは、こういうふうに取り上げるのであれば、スポーツと文化のバランスは1対1にしてほしいということです。もう一つ、中間領域をつくってほしいとも思っています。スポーツと文化は両方とも関わるジャンルというのがあります。例えば、皆さんみたいな公務員もそうですし、札幌ドームもそうではないですか。コンサートだってやっているし、教育的なことでもそういう面があります。

先ほどスポーツツーリズムの話がありました、アートツーリズムもあります。ですから、芸術スポーツに関わるビジネスの創出など、そうした中間領域をつくってください。ここのスポーツに書かれていることはアートでもあります。2004～2005年に、モエレ沼公園の完成に向けて、アートツーリズムについて話し合っています。その方針に沿って、そういうものもできていまして、突然のことではありません。かなり昔からやられていることなのです。だから、その辺のバランスをぜひ考えていただきたいと思います。

こういった観光などに関してもそうですが、スポーツのほうが見えやすいのであれば、そこをアートにも置き換えてみていただきたい。

僕は芸術文化の立場が強いのと言えますけれども、例えば、コロナになったとき、ドイツ政府は、即座に日本と比べられないくらいの金額の助成を支援しました。そのとき、文化大臣は「芸術文化というのは、民主主義の根幹であり、生命の維持に必要なだ」と言いました。コロナで引き籠もっているときにみんなが何をしているかといったら、何らかの形で文化に触れているわけです。これは、スポーツを鑑賞する、観戦するということにも通じると思います。

○平本会長 基本目標の数を2対2にしろというご指摘ではなく、文化とスポーツの両方に共通する世の中に必要なものがあって、そういったものが落ちてしまっていることに問題があるのではないかというご指摘だと思うのです。単純に数をそろえなければおかしいというようなご議論では決してないということです。

確かに、私はこれまで全然気づきませんでしたけれども、スポーツツーリズムがあれば、アートツーリズムもあるし、どちらも人の心を豊かにするし、ドイツでは民主主義の根幹だと考えているというご指摘もありました。その限りでは、スポーツと文化が分かれてしまっていて、分野としては一くくりなのだけれども、両方に共通するまちづくりの方向性が考慮されていないことに問題があるというご指摘は極めて重要なご指摘だと思います。

柴田委員、ありがとうございます。それはとても大事なことだと思いました。どうか直さなければいけないですね。

ほかにいかがでしょうか。

○吉岡委員 今のご指摘と少しつながるのですけれども、スポーツ・文化の基本目標15の「文化芸術が心の豊かさや創造性を育むまち」の項目についてです。

印象として、市民が様々な文化芸術に親しむなど、市民主体で何かをするというのではなくて、受け取るというようなニュアンスがすごく感じられるのですね。でも、まちが元気になるのは、例えば、市民劇団がいっぱいあって活動しているなど、市民が自分たちで文化を楽しんで発信しているというイメージがありますし、実際にそうだと思いますので、既成の文化をたくさん受け取ることができる文化施設をつくる、芸術を呼んでくるだけではない視点があるともっと豊かな目指す姿になっていくと思いました。

○平本会長 市民が主体的に関わるというニュアンスをもう少し入れるべきだということですね。それも間違いなくそのとおりだと思います。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、牧野委員、山本一枝委員の順番にお願いいたします。

○牧野委員 ちょっとずれた質問になるかもしれませんが、今、アートツーリズムやスポーツツーリズムというお話があって、私もユニバーサルツーリズムが頭に浮かんできたのですけれども、この基本目標や目指す姿の中に観光はどこに含まれるのでしょうか。理解力が乏しくてすいません。札幌は観光都市ですが、それはどこに含まれるのかを教えてくださいいただければと思います。

○事務局（本山企画課長） 観光は、3ページの経済分野の10番の目標で、目指す姿のところで触れております。

○平本会長 観光といっても、アートに関わる部分も、スポーツに関わる部分も、今おっしゃったユニバーサルやウェルフェアに関わるものもありますし、アグリツーリズムなど、いろいろとあるのですよね。観光や食も第一義的には経済なのですけれども、裾野としてはすごくいろいろなところに関わっていて、切り分けてしまうとどこかに入れなければいけないのだけれども、実際にはもう少し多様に関わり合っているということは常に意識しておく必要があると思います。

それでは、山本一枝委員、お願いします。

○山本（一）委員 かなり関連してくるのですけれども、私は外国の、音楽が非常に盛んなニューオーリンズというところに行ってきたのですけれども、本当にどこからでも音楽が聞こえてくるというような環境がありました。音楽は人を元気にしますし、アートもそうです。彫刻がまちの様々なところにあるとか、人を元気にするイコール観光だけではなく、それぞれの人々の精神的な幸福度も高めますし、内外ともに文化というのは戦略的に重要かと私は思います。

どんなまちというときのイメージを浮かべたときに、音楽が流れ、そして、美しいもの

が見られ、それから、舞台や演劇を若い方たちを含めた市民が積極的に行い、いろいろなところで文化に触れることができる、日本の札幌に来たらどんなまちだったかという印象を強くするのがアート、文化、芸術の重要な部分だと思います。札幌は音楽が非常に盛んなまちでございますし、もっとアピールしても全然問題ないのかと思いますし、そういうところを強くアピールすることによって、札幌は文化都市だなというイメージに変えられる、いいところだったなと思う気持ちが生まれると思います。

○平本会長 おっしゃるとおりですね。スポーツ・文化のところは、ここまでのご検討が十分に反映されているのに加え、もう少しプラスアルファが必要かと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 それでは次に、4ページの環境分野についてのご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○吉岡委員 用語の使い方についてです。

16番は「世界に冠たるサステナブルシティ」となっておりますよね。都市像のところ、持続可能な世界都市や国際都市という言葉が検討されていますが、サステナブルシティと持続可能な都市という言葉が混在しているのかどうか、どのようにこうした言葉を使っていくのか使い分けていくのかは確認しておきたいと思います。

○平本会長 持続可能な世界都市なのか、サステナブルシティなのか、どっちなのかですね。山中委員、こういうときにはどうしたらよろしいでしょうか。

○山中委員 ここでは、上のほうまで「持続可能な世界都市」となっていますけれども、「サステナブルシティ」の「シティ」は「都市」でも構いません。ほかにはウインタースポーツシティという言葉があって、これも統一させたほうがいいと思っていますが、サステナブル都市でも構わないといえますか、「シティ」という言葉を使う必要はないのかもしれない。

また、多分、国際都市とサステナブルは違いますので、そういう意味では、そこは差別化ができると思います。確かに、「世界に冠たる」というのは、ほとんど都市像の言葉とかぶっているので、ほかの言葉に直す必要があるかもしれません。また、「サステナブル」というのは、ここに書かれている目指す姿の四つだけではなく、いろいろな意味合いが入るので、そういう意味では、全体にサステナブル都市や持続可能な国際都市という言葉とすれば、例えば、世界の中に位置づけられる何とかとか、ほかの言葉に置き換えるのはありでしょうね。脱炭素、あるいは、ゼロ・ウェイスト、ゼロカーボンなど、そういう言葉が主にここに入っています。

もう一つ、よく言っているのですが、我々は、札幌だけではなく、世界の資源を使いながらメガシティをやっているというところがあるので、賢い消費者が暮らすまちというような言い方があると思います。

○平本会長 参考になるご意見をありがとうございます。SDGsのサステナブルというのは環境のことだけを言っているわけではないですから、その意味ではこれも用語について検討が必要かなと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 それでは、5ページの都市空間分野について何かお気づきの点があればご意見等をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○山本(一)委員 資料に都市区間についての図があったと思うので、その図についてももう少し詳しくご説明いただけたらと思います。

○平本会長 資料3の6ページの図のことでしょうか。

○山本(一)委員 そうです。

○平本会長 簡単にご説明いただけますか。

○事務局(本山企画課長) 6ページの都市空間のイメージ図と都市空間の種別の定義についてご説明をさせていただきます。

まず、左側は札幌の都市空間の全体のイメージ図になっておりまして、右側の種別のほうに例えば都心や拠点とありますが、拠点の中でも主要な交通結節点周辺や区役所周辺などを地域交流拠点という言い方をしております。また、産業、観光、文化芸術、スポーツについては、例えば、モエレ沼、芸術の森、厚別のテクノパークを高次機能交流拠点として位置づけておりまして、その外側には、複合型高度利用市街地、郊外住宅地、一般住宅地、そのほかには、工業地・流通業務地、そして、市街化区域の外ということで今の札幌の都市が成り立っているのですけれども、それをこの図でイメージしております。

線の茶色の部分は地下鉄の部分です。あと、左上のほうに延びているのが、道内外とのネットワークということで、例えば、JRや、これから来る新幹線、また、航路を表しています。点線が骨格道路ということで、高速道路、内側は環状道路のようなイメージを持って、この図では表現をしております。

○山本(一)委員 この図を見ると、拠点のところに高次機能交流拠点とありまして、そこでは文化的なことやスポーツ的なことが集約されているようなイメージで書いてあるのですけれども、これではその拠点のみと見えてしまうのです。

でも、住宅地などの子どもたちがいる空間においてもそういったすばらしい札幌の持つポテンシャルを利用できるようなイメージがもう少しあったほうが良いと思いますし、都市空間についてはそういったイメージがちょっと足りないような気がします。

○事務局(本山企画課長) このビジョン編では概念的な略図になっているのですが、戦略編では内容を詳しく記載していくことになります。

○平本会長 市民視点から行きますと、ぱっと見たときになかなか分かりにくいですね。

ほかにいかがでしょうか。

前半に飛ばし過ぎて、後半は息切れがみえますね。私のタイムマネジメントが悪いのですが、もしお気づきの点があればいただきたいと思います。

赤色の字で付け加えられたことで前よりもイメージがかなり湧きやすくなっていると私も率直な感想として思っております、その限りでは、専門部会での議論を踏まえ、基本目標と目指す姿が確実にブラッシュアップされているなど感じている次第です。

○山中委員 全体を通じてです。

専門部会ですけれども、先ほど、観光など、そういう言葉はどこに入るのだということがあったかと思えます。参考資料に事務局としての対応として書いてあるのですが、ここで委員の皆様へのご確認というか、共有認識を持っておいたほうが良いと思うのは、一つ一つの目標の関係性と関連性については基本目標と目指す姿が入る第4章の初めに記載されるということです。そこでここまでの20の基本目標の関係性をしっかりと書いていただくということで、そこで分かるのではないかと思います。

○平本会長 参考資料6には今まさに山中委員が指摘くださった構造が示されていると思うのですが、そのとおりだと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○梶井副会長 私は、子ども・若者、生活・暮らし、地域、安全・安心の領域の専門部会の取りまとめをしておりましたので、そこからのことについて1点だけご報告したいと思います。

専門部会では各委員から大変活発なご意見をいただきました。そこで期せずして合意されたのは、とにかく、このビジョンでは「札幌市民の誰一人取り残さない」という理念を貫きたいということだったと思います。

コロナ禍によってはっきりしましたのは、社会の一番脆弱な部分を取り残されるということです。ポストコロナを見据えるなら、今までの制度設計のなかでは、セーフティーネットが届かない層があるということ、そこへの対策が必要だということです。特に、非正規の女性の自殺率が非常に高まりましたが、そうした方々を札幌市は非常に多く抱えているまちです。そういうことも含めまして、誰一人取り残さないというところは強い決意として、私どもの専門部会ではその方向に向かって議論が進んだと感じております。そのことを、本日の全体会でご報告させていただきます。

○平本会長 このまちづくり戦略ビジョンを考えるときに一番重要な視点の一つだと思います。

ほかに、全体を通じて、個別のところでももちろん構わないのですが、ご発言があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○高橋委員 今までの議論から少しずれるかもしれませんが、全体をまとめるときに色の使い方は結構重要なのかなと思いました。市民の皆様が受け取るときには、イメージというのがあって、そして言葉がしっかりと入ってくるということがあると思います。

イメージだけでは駄目ですけれども、ぜひ全体のビジョンをまとめるとき、もう分けて



いただいていますけれども、全体としての色使いについてもご検討をいただければと思います。

○平本会長 今のご指摘も重要で、例えば、市が災害のハザードマップなどをつくるときにはカラーユニバーサルデザインをしっかりと意識して印刷物をつくっています。先ほどの三つの柱のイメージとカラーユニバーサルデザインというとても難しいお願いにはなりますが、そういったことを踏まえたものにするということも重要な点かと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 時間が大分延びたのですけれども、最後に事務局よりコメントをいただければと思います。

○事務局(浅村政策企画部長) 長時間にわたりまして、ありがとうございました。

アンケート調査結果に関しても委員の皆様から様々なご質問やご指摘等をいただきました。充実度や重要度のねじれみたいなものが、直接、今後の施策の方向性にダイレクトに影響するというよりは、市民の人たちが何を考えてそういうお答えをしたのかという裏を読み取っていくことが非常に重要だなと感じました。年齢層による回答の差など、クロス分析をする中でいろいろなものが見えてくるというご示唆もいただきました。

今後、施策の方向性をさらに戦略編のほうでも検討を進めてまいりますので、その中でアンケート調査やワークショップの結果がどのようにひもづけされているのかも意識した中で検討を進めていきたいと思っています。

また、都市像のところには本当に非常にとくさんのご意見をいただきました。今回の戦略ビジョンにつきましては、市長が諮問をさせていただいたときも、来年、市制100年を迎えますけれども、この次の100年の礎をつくる10年と位置づけ、ビジョンを検討していただきたいというお話をさせていただきました。そういう意味では、都市像は非常に大きな肝になります。事務局に出された宿題も大変重いのですけれども、もう一踏ん張りして、よりよいものをつくり上げていきたいと思っています。

また、基本目標につきましても、概念のレベルといいますか、これから戦略編等でかなり具体的な施策的なことも含めて方向性を検討していただくのですけれども、どの部分でどういう言葉遣いをしていけば全体として調和性が取れるのかも次回にお示しできるような形で、それで、ここでこういう文言を使わせていただくということもお話しできるような整理ができればなと思っています。

いずれにいたしましても、今日は、2時間という長いようで短い時間でビジョン編の非常に大きな肝のところについてご議論をいただき、方向性については少し輪郭が見えてきたかなと我々も捉えておりますので、次回、事務局から改めてご提案をさせていただき、議論を深めていただきたいと思っています。

それから、次回の会議ですが、1月頃に第4回の審議会を予定しております。日程調整

につきましては、委託業者であるノーザンクロスを通じ、後日、改めてご連絡をさせていただきたいと思っております。

今回の議題については、今回ご議論をいただいた部分の再修正のご提案をした上で、ビジョン編の答申を迎えるということもありますので、答申案を、それから、戦略編というお話をしましたけれども、戦略編における施策の方向性についてもご提示し、ご議論をさせていただきたいと思っております。そうしますと、最後まで全体像が委員の皆様にもイメージをしていただき、議論が建設的に、効果的に行えるかなと思っております。

詳細については改めてご案内させていただきたいと考えてございます。

私からは以上でございます。

### **3. 閉 会**

○平本会長 どうもありがとうございました。

本日、予定していた時間を20分近く上回ってしまいまして、ご多忙な委員の皆様方におかれましては大変申し訳ございませんでした。毎度、タイムマネジメントが悪く、反省はしているのですが、なかなかうまくいかない次第ですが、次回以降もどうかよろしくお願ひしたいと思います。

本日は、長時間のご議論をいただきまして、しかも、非常に生産的な議論ができたと思います。感謝を申し上げます。

次回以降もよろしくお願ひします。

今日は、ありがとうございました。

#### **(会議後の追加コメント)**

○牧野委員 第4章「まちづくりの基本目標(案)」にも「観光」のワードがなく、どこに含まれるのかわかりづらかったです。札幌は「観光」が大きな魅力であり、経済、環境、都市空間等にも関係します。経済に含まれるということであれば、基本目標の一覧にハッキリ分かる「観光」の文字を入れてはどうでしょうか。ご検討ください。補足でした。

以 上